

平成 31 年度 海洋スポーツセンター事業計画書

海洋スポーツセンター長 中村夏実

I. 年度計画・目標

1. 海洋スポーツの普及を目的に、かつ平成 30 年度（2018 年度）の実施状況と各事業参加者のアンケートをふまえ、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催する。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力する。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握する。
4. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催する。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第 25 号を発刊する。

II. 事業計画（各事業の主担当者名／実施期間）

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

- (1) 海洋スポーツ活動のための指導者育成（主担当 中村／平成 32（2020）年 1～3 月頃）
自然体験活動指導者（NEAL リーダー）資格取得講習会の開催
- (2) 小型船舶免許取得講習会の開催（実施時期 未定）
学内教職員・学生を対象とし、希望者 5 名程度以上の場合に実施
- (3) 高須小学校との合同授業
（主担当 中村／平成 31（2019）年 5 月～6 月の金曜日 3・4 時限目）
高須小学校の総合学習の時間と、体育大学競技スポーツ論・実習ⅡⅢの授業を合同で実施する。論・実習Ⅲの受講学生が指導案を作成し、児童に指導する形式をとる。

2. 研究プロジェクト

- (1) 生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響
（主担当 中村・榮樂／平成 31（2019）年 通年）
海洋スポーツ活動のうち特に SUP を対象とし、SUP 運動の特徴をバランス能および活動筋群から明らかにする。
- (2) カヌースプリント競技におけるパワーの評価方法について（TASS 複数年継続課題）
（主担当 中村／平成 31（2019）年 通年）
カヌースプリント選手のパワーの評価方法を検討するため、エルゴメーターを用いたパワーテストプロトコルの検討をする。パワートレーニングプログラムの立案に資することを目的とし、メディシンボール投げやその他トレーニングにおいてパワーをより強く反映する種目やその動作の特徴を明確する。
- (3) セーリング競技における選手用テキストの作成（主担当 榮樂／平 31（2019）年 通年）
セーリング競技における（レーザー級）選手用テキストに取りかかる。具体的には艀装、セッティング、ボートハンドリング等の基礎技術習得のための取り組み方を選手に提供することを念頭に資料作成を行っていく。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

(1) 学長杯オープンヨットレース

(主担当 榮樂・坂口・中村／平成 31 (2019) 年 8 月末 (予定))

学長杯オープンヨットレースにて、ヨットレースに加え、他種目(カヌー、スタンドアップパドルボードなど)レースまたは体験会を実施する。

(2) カノヤカップヨットレース大会協力

(主担当 榮樂・坂口・中村／平成 31 (2019) 年 8 月末、学長杯の前日 (予定))

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後の講習会(実技指導等)を企画する。

(3) 公開講座 (中村・榮樂・坂口)

①公開講座 A：楽しいスキndaイビング (初級者編)

(主担当 中村・榮樂・坂口／平成 31 (2019) 年 5 月 9 日 (水)～6 月 24 日 (日))

プール 7 回 (水曜日 19 時～21 時)、海 1 回 (日曜日 9 時～16 時) で、計 8 回の講座を企画する。安全に楽しくスキndaイビングを実施するための知識と技術を習得することを目的とし、講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることを目指す。

②公開講座 B：楽しいマリンスポーツ

(主担当 榮樂・中村・坂口／平成 31 (2019) 年 4 月～5 月の日曜日 5 日間)

半日講座を 4 回および 1 日講座を 1 回で、計 5 回の講座を企画する。ヨットやカヌーを中心とし、経験の浅い者が、安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とする。講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることが理想で、参加者・応援者として活動が出来るような活動場所を推薦する。

③公開講座 C：少年少女海洋スポーツキャンプ

(主担当 榮樂・中村・坂口／平成 31 (2019) 年 7 月 23(火)～25 日(木))

安全に楽しく海浜活動・海洋スポーツ活動を行い、海洋スポーツの基礎技術の習得と磯観察等による環境学習を行う。仲間づくりや仲間とのコミュニケーションの取り方を体験する機会を提供する。

(4) 鹿児島県教員 10 年経験者研修 (パワーアップ研修)

(主担当 榮樂・中村・坂口／平成 31 (2019) 年 8 月初旬 未定)

中学校・高等学校等の教員を対象とした、水辺活動においてリーダーの役目を果たすための各種アクティビティの体験、安全管理方法などに関する講習会を開催する。

なお、教員免許更新講習会と隔年開催とする。

(5) マリンフェスタ in かのやへの協力

(主担当 中村・坂口・榮樂／平成 31 (2019) 年 7 月 15 日 (日) 予定)

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当する。主な種目は、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボードの 4 種目であり、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得る。

(6) 大隅青少年自然の家との事業協力

(主担当 中村・坂口・榮樂／平成 31 (2019) 年 通年)

相互に、海洋スポーツ用具の使用および事業展開における人的交流をはかる。大隅青少年自然の家の海洋スポーツ関連事業に関する人的協力には、学外スポーツ実習への対応をしていただけるよう企画・調整する。

4. その他

(1) 協力者会議の開催 (主担当 中村・榮樂／平成 31 (2019) 年 12 月 2 日 予定)

現在のところテーマは未定。

(2) 競技スポーツにおける強化合宿への協力 (主担当 榮樂／中村)

セーリング競技における競技力向上のための合宿に協力する。現在のところ、開催の有無は決定していない。

(3) 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

業務に支障のない範囲で、教育団体と主とした外部団体の海洋スポーツ実習を受け入れる。その際、学外スポーツ実習の場として活用できることを条件とする。現時点で確定している事業は以下のとおりである。

① 鹿児島南高等学校体育科 2 年次野外スポーツ実習 (海洋スポーツ)

(主担当 中村／平成 31 (2019) 年 9 月中旬 未定)

Ⅲ. 予算計画

海洋スポーツセンター経費 2,400,000 円

区分	金額	算出内訳
謝金	60,000	講師謝金 (@15,000 円×2 時間×2 名)
旅費	320,000	鹿屋－東京 60,000×2 回 (職員) 未定 100,000×2 回 (協力者会議講師)
消耗品費	805,000	施設運用・舟艇等修繕にかかわる消耗品
印刷費	300,000	報告書作成 (海洋スポーツ研究)
賃金	120,000	学生バイト (@800 円×150 時間)
その他 1	795,000	修繕費, 燃料 (ガソリン), 通信費